慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	アダム・スミスの生涯（二）
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.3 (1922. 3) ,p.412(122)- 425(135)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220301-0122

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

アダム・スミスの生涯（二）

高橋誠一郎

七

アダム・スミスは宗教的疑惑と哲學的穿鑿の時代に生を享けたり。而して彼れの「道德的情操論」及び其の他の述作を繙く者は彼れが有神論者たりしを表明する幾多の章句に逢着するも、而も其の基督教徒たりしことを立證するに足るの箇所は殆んど一つも之れを看出すこと能はざる可し。(Hirst, op. cit., pp. 36-45 參照)。かのジョン・ラムジー(John Ramsay of Ochtertyre.)の談の如き、固より巷間一片の閑話に過ぎずして、決して十分なる信を置くに足る可きものには非ざる可きも、又た以て宗教に對する彼れの態度を想見せしむるものなしとせず。即ち曰く、此の著名なる教授は「無神論者ヒューム」の友人にして、彼れ自身も亦た宗教上の問題に關して、不祥なる沈默を守れり、彼れはハッチェソンの如く、基督教の神的起源の證跡に關して日曜講演を開くことなかりき、人は亦た屢々彼れが大學禮拜堂に於ける神事中、其の席に在つて公然微笑しつゝあるを見しなる可し、彼れが初めてグラスゴオ大學教授に任命せられたる時、其の講義を開始するの前に祈禱を行ふの義務を免れんことを大學評議員會に請願して拒絶せられたり、彼れの開講の祈禱は常に「自然宗教の臭味强烈」なるものと思惟せられたり、彼れが自然神學の講義は人間の自負に媚ぶること過大にして、「不遜なる青年を誘つて、神學上の大眞理並に人間が神及び其の隣人に對して負へる義務は何等特殊の天啓なきも、自然の光明によりて發見せらる可しと倣す不當なる結論に」赴かしめたりと(Ramsay, Scotland and Scotsmen, I. 462, 463.)。

スミスは法學及び政治學に關する講義に於て最初より自由交易の學說を唱道せり。而して彼れは其のグラスゴオ在住の十三ケ年間に於て事實上同市をして彼れの意見に改宗せしめ得たりと稱せらる。當時クライド(Clyde)の最も有名なる一商人たりしジェームズ・リッチイ(James Ritchie)、曾つてダッガード・スチュアートに談りて曰く、スミスは其のグラスゴオ在職中に於て同地の主要なる人々の多數を說服して自由交易主義に改宗せしめたりと。(Stewart, Works, vol. VI. p. 379.)。マーカンチリストの殿將サー・ジェームズ・スチュアート(Sir James Steuart)は最も巧妙なる辯論家にして、スミスは彼れの諸著よりも寧ろ其の談話によりて善く彼れの主張を了解せりと云へる程なりしが(Dr. Cleland's account of Glasgow in New Statistical Account of Scotland, vi. p. 139.)、彼れが一千七百六十三年其の長き大陸の流寓より歸りて後、其の周圍を化して保護主義を信奉せしめんことを努めたりと雖も、彼れ等は既にスミスの所說によりて全然穀物自由輸入の信者と爲れる後なるを以て、彼れは是れ等「グラスゴオの理論家」に對して保護論を反復するに厭める旨を率直に告白せり、(ibid, p, 378.)。

加之ならず、ダッガード・スチュアートは一千七百五十二年乃至三年にグラスゴオ大學に於て倫理哲學の講義を聽講せる人々の談に徵して、スミスが早く既に當時の講義中に於て「國富論」の根本原理を表明し、而して同五十五年、同市の某學會に於て、其の自然的自由の學說を表明せる旨を記せり。此の講演の草稿は後年スチュアー

トの所藏に歸せるものにして、スミスは死に先立ちて其の友人ブラック（Dr. Joseph Black）及びハットン（Dr. James Hutton）をして出版に値する少數のものを除き、爾餘一切の草案を燒棄せしめたるも、獨り此の草稿のみは如何にしてか、スチュアートの所有に歸しつゝありしが爲めに、其の破毀を免れたるなり、然れども、此の草稿も亦た恐らくは父の命令に基きスチュアートの子によりて破毀せられたるものなる可し。何となればスチュアートは草稿の全部を公表するは、永遠に葬り去るに如かざる個人的の不和を復活せしむるの虞れあるが故に、之れを不穩當と思惟せるを以てなり。從つて其の內容に關する吾人の知識はスチュアートが初期に於けるスミスの政治思想の發達を示す貴重なる資料として引用するを正當と思惟したる左の數行の文字に限られたり。而もスチュアートは「國富論」中に於ける最も重要なる意見の多くが此の文書中に詳說せられつゝあるを說きつゝあるなり。

「人間は一般に政治家及び設計家によりて一種の政治的技手の材料として思料せらる。設計家は自然が人事の上に作用する進路を攪亂す、而して自然をして彼れ自身の計畫を設定せしむるが爲めには之を放任して、其の目的の追求上公正なる取扱を與ふる以上に何物をも必要とすることなし。……一國をして最低の野蠻狀態より最高度の富裕に導くが爲めには平和と輕易なる租稅と而して相應なる司法以外に殆んど何物をも必要とすることなし。即ち爾餘一切のものは事物の自然的經過によりて成就せらるゝが故なり。此の自然的經過を阻害し、事物をして强ひて他の水路に就かしめ、若しくは特殊の點に於て社會の進步を停止せんと努むる一切の政治は不自然にして、其の存續の爲めには勢ひ壓制暴虐たらざるを得ず。……此の論稿中に宣明せられたる意見の大部分は余が猶ほ余の手元に所藏し、而して六年以前に余の事務を辭せる一書記の手に草せられたる講演中に於て仔細に論述せられたり。是れ等のものは其の全部を擧げて余がグラスゴオに於て過したる最初の冬、初めてクレーギー氏の學級を敎授してより以來、今日に至るまで何等重要なる變更を加ふることなくして行ひ來れる余が講義の不變の題目たりしなり。是れ等のものは其の全部を擧げて余がエヂンバアロオを去る前の冬、同地に於て朗讀せる講演の題目たりしものなり、而して余はエヂンバアロオ及びグラスゴオの兩地より是れ等のものが全然余の所有に屬することを確證す可き無數の證人を擧ぐるを得るなり」。（Stewart, Works, vol. X. p. 68; Alexander Carlyle, Autobiography, 1860, p. 285.）。

此の論稿が如何なる事情に基きて起草せられたるか、其の詳細は今よりして推知すること能はず。唯だスチュアートの言より推して、スミスの講義に出席し、又たは其の交友と屢々往來してスミスの思想を把握せる者が之れを自己のものとして公にしたるか、若しくは公にせんとしつゝありしものゝ如し。一千七百九十年の Monthly Review 誌上に揭げられたるスミス追悼の記事中には、彼れが其のグラスゴオ時代に於て常に其の思想の剽竊せらるゝを懼れ、若し其の學生中の或る者が彼れの講義を筆記するを見たりとせんか、彼れは直ちに之れを差止めて、「余は「ポ作者を嫌ふ」と稱するの習なりきと傳へられたり。而もこは明かに曩きに揭げたるミラーの言と矛盾する所あるなり。當時評判好き敎授の講義は其の學生の筆記帳より謄寫せら

れ、屢々寫本として書肆の店頭に販賣せられしなり。例へばブラーの修辭學講義の如きは數年間斯くの如き寫本の形態に於て普く流布しつゝありしなり。ジェームス・ボナー（James Bonar）は此の一千七百五十五年の宣言を以てアダム・ファグソン（Adam Ferguson）に對して發せられたるものなりと云へり。カーライル（Dr. A. Carlyle）の所言に據れば、ファグソンが一千七百六十七年に其の History of Civil Society. を出版したる時、スミスは彼れを非難して無斷に其の思想の或るものを借用せるものと做し、ファグソンは又た之れに答へて彼れは何物をもスミスより借用する所なきも、スミスが彼れより以前に利用したる或る佛國の資料に據る所多きを以てせり。然れども縱令ひ、一千七百六十七年に其の事ありとするも、而も一千七百五十五年に於て同一の曲事ありしと想像す可き理由存せざるが如し。

八

レー氏の研究はスミスが實務に關しては宛も小兒の如く無能力なりしと云へる意見の虛妄なることを明かにせり。エヂンバアロオに於けるスミスの隣人の一人曾つて彼れに就きロバアート・チエムバース（Robert Chambers）に談りて曰く、斯くの如く賣買及び交換に就きて巧妙なる所論を爲せる人が自ら馬匹用の穀物を購ふこと能はずして他人の援助を必要とせるは奇とすべしと。而もグラスゴオ大學の記錄に據りて案ずるに、彼れは十三ケ年間の在職中に於て他の教授の孰れよりも校務に盡瘁する所大なりしが如し。彼れは會計を檢査し、校庭の排水を檢分し、校園に於けるヒラギソヨゴの生垣が根扱ぎにせられたるを注意し、モーレンヂィナ川（Molendinar Burn）岸に於ける校地の侵害を調査し、一千七百五十八年より同六十四年に亘りて出納司の任務を行ひ、併せて圖書館其他の基金の管理を爲し、更らに學生寄宿舍主監の一人に擧げられたり。

食料品入市稅は猶ほ蘇國に於ける他の大多數の都市と等しくグラスゴオ市の主要なる財源たりしが、グラスゴオ大學の學生は古來の特權によりて各學年の初めに鄕里より學年末までの食用に充つるの限度內に於て碾割燕麥（オートミール）を持參する場合に限り之れに對する課稅を免れつゝありしなり。然るに一千七百五十七年彼れ等は碾割類市場の tracksman によりて稅金を徵せられたり。是に於て乎、スミスはモーアヘッド（Muirhead）教授と共に市長（Provost）を訪問して這般の取立ては大學の特權侵害なることを提言し、而して八日以內に其の拂戾を受けざれば起訴す可きことを嚴談するの任に當れり。而してスミスは次の評議員會に於て其の要求の承認せられたることを報告せり。

スミスは又屢々エヂンバアロオに於て取扱はる可き校務、即ち議會に議案を提出するの件に就き高等法院訴訟代理人アンドリュー・スチュアート（Andrew Stewart）と協定を行ひ、又たはエキスチッカー法院の諸法官（Barons of Exchequer）を歷訪して、大學の計算書を通過せしむるの任務を委託せられたり。而して彼れはスネール財團及び同給費生に關し評議員會とベリオル・カレッジ當局者の間に長く結んで解けざる爭議の存したる時代を通じて多く兩者間の通牒の媒介者たりしき。大學教授は二年乃至三年を任期として交代に出納司（quæstor）の任に當るの習ひなりしが、スミスは常例よりも其の任務を擔任すること長かりしが故に、一千七百六十二年五月十九日を以て評議員會は「スミス博

士は出版司の任務を行ふこと既に久しきに及べるが故に、一名の書記の輔佐を受くることを許容せらるゝ」旨を議決せり。彼れは一千七百六十年より六十二年に亘りて學部長（dean of faculty）たり、次いで六十二年更に副學長（vice-rector）の職を兼ね、彼れと私交深かりし學長トーマス・ミラー（Sir Thomas Miller）は蘇國檢事總長（Lord-Advocate）の職に在りて常に不在勝ちなりしを以て、スミスは副學長として評議員會、コーミッシア（Comitia）、並びに學長廷（Rector's Court）の議長たらざるを得ざりき。學長廷は學長及び諸教授より成り、司法部にして又た行政部の性質を具有し、一時は生殺與奪の權力を有したるものにして、カレッヂの塔中に學生を禁錮することをすら得たるものなり。スミスの同僚が斯くの如く重き任務を彼れに擔はしめ、更らに一千七百六十二年彼れを座長（Praises）に選任せるに由りて考ふるに彼れ等がスミスの實務上の能力を推重すること頗る大なりしを知る可し。

スミスの後繼者たりしリード博士はグラスゴオ大學就任後、間もなく其のアバーヂーンの一友人に書を寄せて、毎週カレッヂの集會に出席せざるを得ざること五六回に及ぶのみならず、是れ等の集會は毒惡なる黨派心の爲めに頗る不快なる性質を有することを痛歎しつゝあるなり。（Hamilton, op. cit. p. 43）。一千七百九十年 Gentleman's Magazine の一記者はスミスの死を報ずるに際し、斯くの如き不和が學校の方針に關する諸問題を續出せしめたること、並びにスミスが常に同市に於ける地位ある人々の間に好評なる側に與せることを傳へたり。而も實際上に生じたる葛藤は恐らく大學とカレッヂとの夫れ夫れの職分、若しくは王室教授（regius professors）と學部教授との夫れ夫れの要求、又たは學長（Rector）と校長（Principal）との夫れ夫れの權力に關するものなりしなる可し。スミスは一千七百六十二年八月十三日に大學評議員會に此の最後の問題に關し極めて長文の報告を提出せる小委員會の一員なりき。此の報告は採用を見たるも、二名の教授は是れを以て餘りに校長に有利なりと爲して抗議を挾めり。然れども グラスゴオ大學の首腦は其の組織上の權利關係若しくは財產管理の微細なる點に關しては論爭することありしならんも、其の一般方針に於ては當時最も賢明なる進取的精神によつて導かれつゝありしなり。

同大學はスミスの就任に先立つ數年前、化學實驗所を建設せり。ブラック博士（Joseph Black）が一千七百五十六年より同六十一年の間に其の潛熱の理論を發達せしめ得たるは此處なりしなり。而して一千七百五十六年、當時僅に二十才の青年なりしジェームズ・ワット（James Watt）は倫敦を去りてグラスゴオに移れるも、同市の鐵職組合が市内に製作場を開設するの許可を與ふることを肯せざりしが故に、グラスゴオ大學教授は校内に製作場及び賣場を給與して、彼れを同大學數學器械製造者たらしめたり。其の同僚と協力して排他的なるギルドの横暴より此の若き技術家を救ひ得たるスミスの喜悅想ふ可し。スミスは好んでワットの工場を訪ひ、兩者は軈がて深交を締するに至れり。是れよりして半世紀以上の歲月は流れて一千八百〇九年、恰もワットが八十三歲を迎えたる時、此の「若き技術家」が新たに發明したる彫刻機械を以て先づ造り上げたるものゝ一は象牙製のスミスの頭像なりき。（Muirhead, Life of Watt, 1858, p. 470.）。

校内の他の一隅にはロバアート・フールヅの印刷所の開設を見たり。フルーヅは恰もスミスが牛津を去るの前、ハッチエソンの勸告に由りてグラスゴオに其の事業を開始したるなり。彼れはホレース（Quintus Horatius Flaccus）を印刷するに當り、其の校正刷を校内に掲げて誤謬を發見したる者には報酬を提供せり。スミスは其の師ハッチエソンの System of Moral Philosophy が一千七百五十五年、フールヅの手に美しく印刷せられて四折判兩卷として出版せられたる時、其の二部を申込めり。スミスは元來愛書家にして、精巧なる刊本及び裝幀を好めり。彼れは曾つて其の書架の數書を稱讃せる印刷業者スメリー（William Smellie）に言ひて曰く「余は惟り余の書籍のみに華奢を衒ふものなり」と。

スミスは又た美術に對して彫琢せられたる趣味を有せる人なり。（而もスチュアートの意見に據れば、彼れは直接享樂の手段として藝術品に興味を有するよりも、其の製作に含蓄せられたる人間性の原則を推論するの資料として之れに興味を有せるものゝ如しと）。スミスはフールヅの「意匠學校」（Academy of Design.）に對して顧問の地位に在りしが如し。フールヅの組合員にして、エッンバアロオの代理店に於ける製作物販賣の局に當れるダルリンプル（Sir John Dalrymple）が一千七百五十七年十二月一日、フールヅに書を寄せて「貴下の提供せらるゝ歴史畫に就きては、スミス氏及びブラック博士（Joseph Black）の忠告に從はるゝことを希望仕り候」と云ひ、更らにスミス氏は貴下の爲めに此の請願書（フールッに對し俸給を與ふるの件に關する政府宛の請願書）を起草するが爲めには餘りに多忙に過ぐるか、若しくは無性に過ぐるも、ブラッグ博士は進んで之れを行はるゝならんと自信仕り候」「小生はグラスゴオに赴くの機會無之候まゝ、貴下及びスミス氏がクリスマスの休暇に當地に來らるゝか、又たは貴下が單獨にて當地に來らるゝを希望仕候」云々と言へるに徵して這般の消息を明かにするを得可し。（Duncan, Notes and Documents, p. 25.）。是れに由りて吾人はスミスがフールヅの印刷所を訪ふこと多かしは當だに當時活字盤上に在りし有名なるフールヅ版イリアッドを見んが爲めのみに非ざりしを知る可し。スミス及びミラーと共に古人の態度を學んでグラスゴオの前廊を散歩するを得意とせるプヒャーン卿（Earl of Buchan）はフールヅの技術室に於て腐刻法（etching）を學べり。スミスとフールヅとの關係は既述せるハミルトンの詩集出版に始まれるものなり。而してフールヅが、一千七百五十年以後に及んでチャイルド（Sir Josiah Child）、ジー（Joshua Gee）マン（Thomas Mun）ロー（John Law）及びペチー（Sir William Petty）等の手に成れる初期の經濟論を翻刻すること多かりしはスミスの勸告に依れるものには非ざるか。

此印刷所に於て使用せられたる活字は Camlachie なるアレグザンダー・ウイルソン Alexander Wilson）の活字製造所より供給せられたり。ウイルソンはグラスゴオ大學版のホーマー（Homeros）の爲めに希臘活字の鑄造に時と金とを費すこと頗る大なりしに拘らず、大學附印刷業者を除きては之れに對して他の顧客を看出すこと能はざりしが故に、一千七百五十九年、注文を求めて倫敦に上り、スミスの紹介狀に由りて當時在京中なりしヒュームを訪問せり。（七月二十九日附スミス宛ヒュームの書簡參照、Burton, Life of Hume, ii. p. 59.）然るに一千七

百六十年にグラスゴオ大學は觀測所を建設し、王室の援助を得て星學の新講座を開設し、ウイルソンは同講座に任命せられ、一千七百六十二年校内に居住するに至りしを以て、兩地間を往復するの不便を避けて彼れの爲めに活字製造所を校内に建設せんことを評議員會に請願せり。此の請願書は四月五日を以て附議せられしが、結局アダム・スミスの發議に由りて一定の條件の下に四十磅を超過せざる費用を以て校内の最も便宜ある地位に之れを建設することと爲れり。

スミス自身も亦た早くよりして星學に興味を有し、タレース（Thales）及びピタゴラス（Pythagoras）の學派よりコペルニカス（Copernicus）、ブラーエ（Tycho Brahe）、ガリレオ（Galileo）及びデカート（Descartes）の體系を經て、ニユートン（Sir Isaac Newton）に至る星學史（The Principles which lead and direct Philosophical Inquiries; illustrated by the History of Astronomy.）は彼れの死後一千七百九十五年に至り、初めて其の Essays on Philosophical Subjects. 中に出版せられしものなるも、吾人はダツガード・ステユアートの記する所に據りて、其の稿本は彼れの述作中に於て最も早く成れるもの丶一なるを知る可く、又た篇中、一千七百五十八年に現る可き彗星の豫言を記せるに徵して、同年前の作たること明かなる可し（ibid, p. 90 and note.）ハーストは說を作して曰く、彼れは牛津在學中に於て其の資料を蒐集し、一千七百四十六年秋より同四十八年に至るカアコオデイの幽棲中に於て之れを完成せるものなる可しと（Hirst, op. cit., pp. 16-17.）。

九

グラスゴオ大學の諸敎授は更らに進んで職人

階級の爲めに自然化學の講義をすら開始せり。一千七百六十一年、スミスは又た學生の間に運動競技を奬勵するの目的を以て舞蹈、擊劍及び騎馬の學習所を建設するの發案者たりき。彼れは同年十二月二十二日評議員會を代表して其の計畫を學長 Errol 卿に說明して其の援助を求むるの任に當れり。然れども這般の計畫は終に其の實行を見るに至らざりき。翌六十二年シェツルストン（Shettleston）の Robert Bogle 等五名の富商の發起に由りて初めてグラスゴオに常設劇場の創立を見んとしたる時、スミスは之れに對して猛烈なる反對者として現れ、一千七百六十二年十月二十五日、校長及び他の二敎授と共に劇場建設を防止す可き最も適當なる方法に關して市政官と商議し、同時に又た牛津大學が其の地域内に此の種のもの丶設立を防止し得るの特權を有するや否や、若し又た斯くの如き特權存するとせば、之れを有效ならしむるの方法如何を調査するの委員に選出せられたり、同大學は是れ等委員の意見に據りて此の問題を檢事總長に建白し、市政官を說きて彼れ等と共に建白書を提出せしむることに決せり。スミスは校長及び一二の敎授と共に特別委員に擧げられて大學舊來の特權及び組織を調査せり。一方に這般の調査が進行しつ丶ある間に、他方に於て市政官は多數住民の後援を得て新劇場に於て演技を行はんとする俳優に對し訴訟を提起するに決せり。而してスミスを議長とせる一集會に於て同大學は市政官と協力して這般の行爲に出づ可きことを議決せり。劇場建設反對運動は一千七百六十四年、スミスが其の敎職を辭せる後に至りても猶ほ繼續せり。而も幾許ならずして、何等法律上の援助を受くる能はざること明かと爲るに及びて漸次鎭靜に歸し、終に劇場は一哩の市

外に建設を見たり。然れども同劇場は同年恰もベルアミイ夫人(George Anne Bellamy)を中心とせる一座を聘して開場せんとしつゝありし時、奇矯なる說敎者の煽動に由りて暴徒の爲めに燒き拂はれたり。

然れどもスミスは此の劇場建設反對運動の起る數年以前、ジョン・ホーム(John Home)の悲劇Douglas(一千七百五十四年の作)の演出に興味を有し、其の上場がエヂンバアロオの長老敎會を憤激せしむるや、之れを辯護するの地位に立てり。彼れは固より巷說の傳ふるが如く、一千七百五十六年エヂンバアロオに於ける其の公演にも、又た是れより以前、女優ワード夫人(Ward)の部屋に於て行はれ、作者自身を始めとしてヒューム、カーライル、ファーグソン及びブラー等が悉く登場せりと稱せらるゝ其の私演にも現るゝことなかりしが如くなるも、而も彼れがホームの他の友人等と全然意見を一にせることはスミス宛ヒュームの書簡（日附なきも同年內に認められたること明かなり）に依りて窺知するを得可し。(Burton, op. cit., II, p. 16.)。スミスは又た其の佛國旅行中に於て屢々同國の劇場を見物し、之れを賞讃すること大なりしと云ふ。加之ならず、彼れは其の「國富論」中に於て曾だに演劇に就きて何等の反對論を行はざるのみならず、其の效用を擧示し、國家が完全なる自由を與へて之れを奬勵す可きことを勸告しつゝあるなり。(Wealth of Nations, Bk. V. chap. i. art. 3.)。而も彼れが演劇に對して完全なる自由を要求せるは「醜陋恥づ可きの所爲」なくして人民を樂ましむる場合に限れり。彼れが當年劇場建設反對運動の主腦たりしは當時蘇國に於ける不淨不德なる演藝の上場に基けるものには非ざるか。(Doran, Annals of the Stage, II. 377 參照)。

スミスは一千七百五十七年當時東洋語敎授たりしアンダーソン(John Anderson)が自然哲學講座の候補に立ち、自ら選擧人として自己に投票するの非なることを抗議すること前後三回に及べり。曾つてスミスが倫理哲學の講師に選任せられたる時、彼れも亦た自己の選擧人の一人なりしが、スミスは何等の抗議をも受くることなかりしに拘らず、彼れを選任せる會議には出席することなかりしなり。次いで宗敎及び國史敎授William Rouetが在職のまゝホープトウン卿(Lord Hopetoun)の長子ホープ卿(Lord Hope)の師傅として外遊するが爲めに、ホープトウン卿より書面を以て其の休講の許可を求めたる時、スミスは評議員會に於て、多數を以て之れを拒絕せる者の一人なりき。而してRouetが此の拒絕を意とせずして外遊を主張せるが爲めに、同大學が職務怠慢の故を以て多數の意見により其の職を剝奪せる時、スミスは又た熱心に之れを主張せる者の一人なりき。是れに由りて名譽學長(Lord Rector)との間に爭議を生じ事態頗る險惡と爲れるも、校內に於ける輿論の壓迫は終にRouetをして辭任の己むなきに至らしめ、幸にして大事に至らずして止めり。此の時に當りスミスは評議員會の少數によりて作製せられたる反對意見書に對し辯駁書を起草するが爲めに選任せられたる小委員會の一員たり、學長Errol卿がBute卿の通告を傳達せる者は彼れにして、又たPitfourのフアグソン(Ferguson)及びMountbodieのバアネット(James Burnett, Lord Monboddo.)の二大法律家の意見を徵するが爲めにエヂンバアロオに派遣せられたるものは彼れ及びミラー敎授なりき。後年スミス自身が同一の事情に際して如何に行動せるかは之れを後項に述ぶ可し。（未完）